

公開シンポジウムとB.アンドリュース講演会 「間とあいだの比較現象学」

◆ 3月13日（火）立教大学池袋キャンパス本館1201

午前：B・アンドリュース講演会1「身体による学習」（英語：通訳なし）

10:00-11:30 ベルナルル・アンドリュース（Bernard Andrieu）

"Learning through the Body : the Living Body in Circus Art"

11:30-12:30 アレクサンドル・ルジャンドル（Alexandre Legendre）

"How the Mind-Body Problem Impacted Western Ways of Thinking Body Techniques"

午後：シンポジウム・セッション1「間とあいだの多様性」（日本語）

13:30-14:10 織田和明「偶然と可能のあいだ」

14:10-14:50 氏家悠太「音声言語」と「物体認識」の視聴覚統合の発達」

14:50-15:30 國領佳樹「グローブとは何か？：聴覚と身体感覚のあいだ」

15:30-15:50 休憩

15:50-16:30 源河亨「芸術的パフォーマンスにおけるネガティブな行為」

16:30-17:10 関本幸「顔と人種の現象学」

17:10-18:00 河野哲也「離見の見と間合い」

◆ 3月14日（水）立教大学池袋キャンパス本館1201

9:00-9:10 二日目・開会の挨拶

午前：セッション2「間とあいだの認知科学的アプローチ」（日本語）

9:10-10:10 友野貴之「「間」を破る：人は、人と人との間をどのようにして通り抜けるのか」

10:10-11:10 樋口貴広「隙間通過行動に見る歩行中の「間」のとりかた」

11:10-12:10 諏訪正樹「身体知としての着想・間合い一体感を科学する必要性ー」（仮）

午後：セッション3「間とあいだの哲学的アプローチ」（英語：通訳なし）

13:00-14:00 河野哲也「態（わざ）と音楽性」（Technique and Musicality）

14:00-15:00 奥井遼「動きを導く身体的コミュニケーションー身体芸術学校の稽古から」

(The Communication Leading a Movement: a Training Session in the Performing Art School)

15:00-15:15 休憩

15:15-16:15 アレクサンドル・ルジャンドル（Alexandre Legendre）

"How Does the Ma Notion Question Western Traditional Ways of Thinking the Body ?"

16:15-17:15 ベルナルル・アンドリュース（Bernard Andrieu）

"Embodied Interculturality in My Hybrid Body"

17:15-18:00 全体討論

18:00-18:05 閉会の挨拶

◆ 3月16日（金）立教大学池袋キャンパス6号館6201

B・アンドリュース氏講演会2「イメージオロジーとマイクロ現象学」（英語：通訳なし）

15:15-16:15 アレクサンドル・ルジャンドル（Alexandre Legendre）

"How the Mind-Body Problem Impacted Western Ways of Thinking the Movement"

16:15-17:30 ベルナルル・アンドリュース（Bernard Andrieu）

"Emersiology and Microphenomenology : the Philosophical Debate in France"

主催：科研費助成事業「新学術領域研究」トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築（顔・身体学）

計画班「顔と身体表現の比較現象学」（代表：河野哲也）<http://kao-shintai.jp/index.html>

共催：立教大学文学部

シンポジウム提題者略歴

Bernard Andrieu : パリ第五大学教授。専門は、神経科学の哲学、身体の科学認識論、スポーツ哲学。著書に、『身体生態学』(L'écologie corporelle. Paris, Harmattan, 2017), 『生ける身体を感覚すること』(Sentir son corps vivant. Emersologie 1. J. Vrin, 2016.), 『身体のアバター』(Les Avatars du corps. Hybridités et Somatechnies, éd. Liber, 2011) など多数がある。

Alexandre Legendre : パリ第五大学助教。専門は、身体の哲学、スポーツ哲学。共著書に、『身体哲学事典』(Vocabulaire Philosophique du Sport, L'Harmattan, 2017) がある。また、フランス哲学、東洋思想に関する論文がある。

織田和明 : 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程。専門は、近代日本哲学。論文に「九鬼周造の『偶然性の問題』における「現実」」(『年報人間科学』, 2017)、「構造を闡明し、存在を把握する—『「いき」の構造』の存在論—」(『比較思想研究』, 2018, 印刷中) などがある。

氏家悠太 : 中央大学研究開発機構 機構助教。専門は認知心理学、個人差心理学。論文に、Individual Differences and the Effect of Face Configuration Contexts in the McGurk Effect. (Experimental Brain Research, in press)、「視覚発達から読み解く発達障害の見る世界」(月刊「発達教育」2018年1月号) などがある。

國領佳樹 : 立教大学兼任講師。専門は、フランス哲学・現象学、知覚の哲学。共著書に、『画像と知覚の哲学』(東信堂、2016)、論文に「メルロ＝ポンティの身体意識論」(『現象学年報』30号) などがある。

源河亨 : 日本学術振興会特別研究員PD(東京大学)、慶應義塾大学通信教育部非常勤講師。専門は、心の哲学、分析美学。著書に『知覚と判断の境界線: 「知覚の哲学」基本と応用』(慶應義塾大学出版会、2017)。

関本幸 : ミネソタ州立大学マンケイト校、准教授。立教大学客員研究員。論文に、「人種と感覚—人種をめぐる感覚的アパラタスの理解にむけて」(Critical Philosophy of Race, 2018)、「人種化された舌の現象学—身体性、言語、そして発話する体」(Departures in Critical Qualitative Research, 2016) などがある。

河野哲也 : 立教大学教授。専門は、現代哲学、倫理学。著書に、『いつかはみんな野生にもどる』(水声社、2016)、『現象学的身体論と特別支援教育』(北大路書房、2015)、『意識は実在しない: 心・知覚・自由』(講談社メチエ、2011) など多数ある。

友野貴之 : 早稲田大学大学院博士後期課程。専門は、認知科学、実験心理学、生態心理学。論文に、「人はいかにして人と人との間を通り抜けられると判断するのか?—間隙アフォーダンス知覚の新たな展開」(『認知科学』24(3))、その他では、「How Do People Perceive Affordances for Passing Between Two People Facing in Different Directions?」(The International Conference on Perception and Action 19 2017) などの発表がある。

樋口貴広 : 首都大学東京教授。専門は、スポーツ科学、実験心理学。著書に、『運動支援の心理学』(三輪書店、2013)、『身体運動学—知覚・認知からのメッセージ』(三輪書店、2008) など多数ある。

諏訪正樹 : 慶應義塾大学教授。専門は、認知科学、デザイン学、一人称研究。日本認知科学会で常任運営委員、編集委員。New Generation Computingでは、Area Editor。著書に、『身体が生み出すクリエイティブ』(ちくま新書、2018)、『「こつ」と「スランプ」の研究—身体知の認知科学』(講談社メチエ、2016)、『知のデザイン—自分ごととして考えよう』(近代科学社、2015)、『一人称研究のすすめ—知能研究の新しい潮流』(近代科学社、2015) など多数ある。

奥井遼 : パリ第五大学客員研究員。専門は、臨床教育学、教育哲学。著書に、『〈わざ〉を生きる身体』(ミネルヴァ書房、2015)、また論文に「「沈黙の声」にみる身体的志向性—わざ研究へのメルロ＝ポンティ現象学からの接近」(『京都大学大学院教育学研究科紀要』, 2012) などがある。